

2024 年度 緑区自立支援連絡協議会 活動報告

1 活動の柱

1. 障害のある当事者の皆さんに参加の呼びかけを行い、一緒に住みやすい地域を考えていく機会を作っていきます。

2023 年度の権利擁護部会準備会の活動を総括し、今年度は、権利擁護部会の発足に向けて協議会全体にも確認しながら準備を進めていきます。

権利擁護部会、精神部会、障害のある人もない人も共につくる緑区民のつどいなど様々な機会で、障害当事者の皆さんの声を聴き、改めて当事者の立場に立った支援を考えるきっかけにしながら、障害当事者の皆さんとその家族が住みやすい地域を作ります。

2. 地域の支援力アップの為に、ネットワークづくりに取り組みます。

- ① 部会活動を中心に、事業所同士の交流や、部会の枠を超えた横のつながりを作っていきます。
- ② 当事者参加、構成員のネットワークづくりを引き続き進め、当事者や家族、また事業所が孤立する事がないよう取り組みを進めます。
- ③ 障害分野以外の関係団体との連携や情報共有、ネットワークづくりに取り組みます。

3. 障害がある人もない人も、誰もが住みやすく、お互いに支えあえる街づくりに取り組みます

緑区民まつり（障害者と区民のつどい）の中で、障害のある方と区民の皆さんと一緒に参加できる企画を通じて障害理解が深まることを目的として、「第 13 回障害のある人もない人も共につくる緑区民のつどい」を開催します。

2. 2024 年度 日程

	事務局会議・運営委員会他	内容
4月	事務局会議（11日）	
5月	運営委員会（30日）	地域生活推進事業所説明会
6月	●全体会（26日）	活動報告、活動計画、決算予算、会長・副会長選任
7月	事務局会議（25日）	
8月	運営委員会（29日）	グループホームふわふわの状況報告
10月	事務局会議	書面開催
	★第13回 障害のある人もない人も共につくる緑区民のつどい(28日)	緑区区民まつり（障害者と区民のつどい）にて開催
11月	運営委員会（28日）	各部会から集約した地域課題の報告、意見交換
1月	事務局会議（16日）	
2月	運営委員会（27日）	緑消防署との懇談
	南ブロック連絡会(20日)	・南ブロックの共通の地域課題の討議（障害者支援課認定支払係、4区（緑・南・天白・瑞穂）の区役所・支所・保健C・基幹C） ・各区から地域課題の文書を市に提出

- ・南ブロック会議・・・年6回（4月、6月、8月、10月、12月、2月）
- ・名古屋市自立支援連絡会 年3回 ①7月 ②11月 ③3月

全体会 年1回、活動報告、活動計画、課題交流を行っています。

事務局会議 運営委員会の議題の整理を行っています。

運営委員会 情報共有、協議会活動の推進、地域課題の集約と具体化を行っています。

2024 年度 強行部会 活動報告(案)

◇運営委員会

- ①5/10(金)10:00～12:00
- ②6/21(金)10:00～12:00
- ③8/23(金)10:00～12:00
- ④12/13(金)10:00～12:00
- ⑤2/7(金)10:00～12:00

◇定例会

	日にち	内容	場所	参加者数
第1回	6/10(金) 10～12	研修会 「自閉症支援がうまくいかない… 最初にやることは？」	徳重支所 第 1, 2会議室	64
第2回	7/5(金) 10～12	合同学習会 「R6 年度報酬改定」 講師 あいぼ奥山	同上	30
第3回	9/25(水) 10～12	実践報告 「わかたきっずの事例から」 報告者岡本／助言者あいぼ奥山	同上	25
第4回	1/17(金) 1300～1630	事例検討会 「冰山モデルで考えてみよう」 講師あいぼ奥山	同上	32

(2024 年度 のべ人数 151 名)

※参考:2023 年度 152 名

2024 年度のふりかえり

- 参加者は、昨年度とほぼ同じ数であった。
- 生活介護や GH、児童関係、相談員に加え、行政関係(りんくす名古屋)や地域療育センター、養護学校の教員の方、あけぼの学園など幅広い領域の関係者に参加いただくことができた。
- 第 4 回の冰山モデルをテーマにした定例会においては、りんくす名古屋や名古屋市強度行動障害者支援事業の講師の方にオブザーバーで参加していただき、外部の専門的な視点からグループワークでの意見交流などを促進することができた。
- 定例会の参加者の満足度は高い一方で、その後事業所見学や新たに事業所で構造化を取り入れた支援を始められるなど、具体的に行動を移されるケースは少ない印象。

以上

精神部会 2024 年度活動報告

【2024 年度の取り組み】

・定例会を 2 回開催した。主には区内の地域課題の検討と抽出を行い、下半期は緑区をみた時のクライアント層や社会資源の変化をふりかえり、現在の精神部会で何に対応ができるのかを検討しあった。

・企画講演会をコロナ禍以降、4 年ぶりに開催した。ピアサポーターを 4 名迎え、リカバリーストーリーを語って頂き、シンポジウムで今後のピアサポート活動について会場からの質問や意見を頂戴し、理解を深めました。

●定例会：2 回（10/1.2/4）

●企画講演会：1 回（12/21）

○講演会実行委員会：11 回（4/23.5/21.6/18.7/16.8/20.9/17.10/15.11/22.12/17.1/7.2/18）

○各種実行委員会・精神部会運営委員会

2024 年	
10/1	第 1 回定例会「地域課題について」
12/21	第 8 回 企画講演会「メンタル疾患のあるわたしが語る過去と現在とこれから」
2025 年	
2/4	第 2 回定例会「来年度にむけて」

【定例会 参加事業所】

はたらく工房 鳴海ひまわりクリニック メンタルクリニックみなみ ゆたか希望の家
相談支援事業所 多機能型事業所わかた 地域活動支援センターしかやま 緑区障害者基
幹相談支援センター

【昨年度の振り返り】

- 1) 昨年度の定例会と講演会の参加者層を分析したところ、既に関係のある関係者のみの参加が目立ち、新しい関係の構築が難しくなっている。また、普段から当事者と関わっている、地域の事業所やクリニックの参加も少ない。
- 2) ふりかえりから多様な課題がみえ、精神の当事者だけの課題ではなく、子供や精神障害を持つ親、住まい、仕事などの複合的な課題が増えている。しかし、構成員の対応している当事者や家族の方たち以外の、サービスや資源に繋がっていない当事者が多数いる。その方たちへのアプローチや支援、情報を届ける方法も課題となり検討が必要。
- 3) 現在の部会の形では、多様化する精神保健の課題に対応が難しく、構成メンバーと取り組む内容を鑑みて、今後、部会か連絡会のどちらで運営するか検討していく必要がある。
- 4) コロナ禍以降初めて、企画講演会を開催した。昨年度のプレ企画より参加頂いているピアサポーターの方と企画を検討し、今後の緑区のピアサポート活動を行う環境づくりと共に、精神保健福祉に関する普及啓発活動を実施した。

2024 年度 自立支援連絡協議会相談部会 活動報告（案）

【活動の概要】

- ・事例検討を行い、当事者理解や社会資源の活用方法の学び合いなどを通じて、ソーシャルワークスキルの向上のための場とした
- ・個々の事例から地域課題の抽出と共有、解決を協議
- ・高齢分野（ケアマネサロン）や児童分野、重層的支援体制等他分野の課題を学び議論する機会を持つ

全て 10:00～12:00	内容	場所
4 月 1 7 日（水）	新年度顔合わせ、新年その体制等事業所から近況報告、名古屋市集団指導、報酬改定等	緑区役所第 2 会議室
5 月 1 6 日（木）	事例検討（ゆたか希望の家相談 石川さん）	徳重支所第 1、2 会議室
6 月 1 8 日（火）	① なごや福祉用具プラザ説明会 ② 地域生活支援拠点等の現状について	徳重支所第 1 第 2 会議室
7 月 1 8 日（木）	日本福祉大学木全先生より 講義「報酬改訂について」	オンライン
9 月 1 9 日（木）	地域課題について	徳重支所第 1、2 会議室
1 0 月 2 3 日（水）	ケアマネサロン	区役所講堂
1 1 月 2 1 日（木）	① 重層的支援体制整備事業について ② 地域課題について その 2	緑保健センター 2 階健康増進室
1 2 月 1 8 日（水）	① 放課後デイにまつわる地域課題について ～障害児を取り巻く環境について考える～ ② 事業所の近況&困りごとと交流	緑区役所第 2 会議室
1 月 1 4 日（火）	・事例検討（グリーンミント玉川さん）	緑区役所第 2 会議室
3 月 7 日（金）	児童ネットワーク	（児童部会主催の会議に参加）
3 月 1 8 日（火）	次年度の相談部会について	緑保健センター 2 階健康増進室

* 構成員：

○緑区内の指定特定相談支援事業所（15 事業所）相談支援センターなごみ ゆたか希望の家 相談支援ぽぽ 有限会社もみじ 相談支援ふわふわ 相談支援事業所ひなゆり 相談支援センターてらす 相談支援カモミール 相談支援よすが 相談支援事業所 m e 相談支援ハビネス 相談支援グリーンミント 相談支援事業所かわうそファミリー 相談支援ルナ 季楽指定特定相談支援事業所 春風

○他区の指定特定相談支援事業所（5 事業所）相談支援事業所ひととま、相談事業所まり、相談支援事業所神無、相談支援事業所ルドルフ、南部地域療育センターそよかぜ

○行政機関 緑区役所福祉課、徳重支所区民福祉課、緑保健センター

2024 年度 権利擁護部会活動報告

2023 年度に始まった権利擁護部会準備会では、障害のある方が地域で自分らしく暮らすために、緑区の権利擁護の視点を高めるために本部会にむけての活動をしてきました、今年度からは専門部会に加わり、権利擁護部会として活動しました。緑区自立支援連絡協議会内でも強い関心が寄せられ、多くの方に参加していただき、交流会を通じてつながりを実感できた 1 年になりました。

虐待の予防、早期発見のための見守りネットワークの構築、虐待発生時の対応介入ネットワーク、専門機関による介入支援ネットワークの構築については、今後も引き続き課題として取り組んでいきます。

定例会

	日にち	内容	場所
第 1 回	7 月 19 日（金） 13:30～15:30	講演会「私が考える権利擁護」 講師 特定非営利活動法人チャレンジド 理事長 柳原康来氏 参加者 41 名 + 基幹 5 名	区役所講堂
第 2 回	11 月 13 日（水） 14:00～16:00	「成年後見制度について」 講師 アイリス法律事務所 弁護士 安田剛氏 ぷらっとほーむ 理事長 富田哲生氏 参加者 25 名 + 基幹 3 名	ぷらっとほーむ 会議室
第 3 回	2 月 5 日（水） 13:30～16:00	権利擁護・虐待防止研修 「障害者虐待の理解と防止に向けて」 講師 名古屋市障害者虐待相談センター 合瀬真奈氏 参加人数 51 名 + 基幹 3 名	区役所講堂

運営委員会

第 1 回 5/21 今年度の部会の活動について、第 1 回定例会の打ち合わせ

第 2 回 10/15 第 1 回定例会の振り返り、第 2 回定例会の打ち合わせ

第 3 回 1/20 第 2 回定例会の振り返り、第 3 回研修会の打ち合わせ、次年度の活動について

第 4 回 3/10 第 3 回研修会の振り返り、次年度の予定決め

2024 年度 児童関係 活動報告

◇障害児支援連絡会

目的：障害のある子どもたちを支える事業所の交流を行い、横のつながりを作る。市民向け企画の実施。

定例会	日にち	内容	場所
第 1 回	6月 14 日（金）	事業所紹介、交流会 参加 23 名（21 団体）	徳重支所
第 2 回	9月 13 日（金）	地域課題 参加 26 名（19 団体）	徳重支所
第 3 回	2月 14 日（金）	コロナ後の子どもたちの変化 参加 20 名（18 団体）	区第 2 会議室
イベント	11月 21 日（木）	中止	区講堂

◇障害のある子どもを支えるネットワーク

目的：緑区における障害の子どもたちを支えるための課題を整理し、必要な資源を作る。

障害のある子どもの関係者のネットワークを作る。

定例会	日にち	内容	場所
第 1 回	7月 3 日（水）	「特別支援学校の就労支援と卒業後の支援」 講師 南特別支援学校 進路指導主事 揖斐先生 参加人数 20 名 + 基幹 4 名	保健センター 2F
第 2 回	10月 16 日（水）	「子育てと親の思い」 交流会 講師 障害児サークル 参加人数 19 名 + 基幹 3 名	保健センター 1F
第 3 回	3月 7 日（金）	「発達障害や不登校生徒の未来に向けた支援」 講師 ナーシング高等学院 参加人数 27 名 + 基幹 2 名	保健センター 2F

◇不登校を考える会

目的：緑区内の児童に関わる課題についての交流と、関係機関への働きかけ、資源開発。

交流会の 1 年の成果をネットワーク会議での発表を目指す。

	日にち	内容	場所
第 1 回	4月 26 日（金）	各施設、事業所からの様子 実践報告	緑児童館
第 2 回	7月 23 日（火）		
第 3 回	10月 30 日（水）		
第 4 回	1月 22 日（水）		

一年のふりかえり

- 1) 今年度は衆議院解散があり、講堂の使用ができずみどりっこひろばは中止となった。
- 2) 連絡会は新規事業所の参加も増え、横のつながりが広がってきている。
- 3) ネットワークでは障害児サークルからの参加もあり、地域のつながり、多職種連携が見えてきた。
- 4) 不登校を考える会では、事業所の実践報告を交流しながら、必要な社会資源を考える場になってきた。
- 5) 委員を中心に運営し、緑区の地域課題についてみんなで考えていく流れができた。

不登校を考える会

不登校を考える会は、児童部会の定例会での交流がきっかけで始まりました。不登校の問題は、福祉だけでなく、教育、医療、地域と他分野にわたり、不登校の子どもたちを支えていくことが求められています。3か月に一度緑児童館に集まり交流し、毎年2月には不登校を考える会の報告会を行い、緑区の現状と実践報告をお伝えしています。不登校に関心のある方はお声掛けください。

目的：緑区内の児童に関わる課題についての交流と、関係機関への働きかけ、資源開発。
1年の成果を児童ネットワークで報告会を行います。

メンバー ナーシング高等学院 相談支援事業所 子ども応援委員会
メンタルクリニックみなみ 緑児童館 社会福祉協議会 緑区基幹センター

2024年度 活動報告

	日にち	内容	場所
第1回	4月26日(水)	各関係機関から不登校の実態を交流	緑児童館
第2回	7月23日(火)		
第3回	10月30日(水)		
第4回	1月22日(水)		

児童ネットワーク報告会 2024年 3月7日(金) 緑保健センターにて 参加者29名

1. 不登校を考える会からの報告

(1) 緑区の不登校の現状

報告 なごや子ども応援委員会 SSW 野村利恵

(2) 実践報告

テーマ「発達障害や不登校生との未来に向けた支援」

報告 ナーシング高等学院 学院長 鈴木氏 井釜氏

2. 交流会

2025年度の予定

	日にち	内容	場所
第1回	5月15日(木)	各関係機関から不登校の実態を交流	緑児童館
第2回	7月 日()		
第3回	10月 日()		
第4回	1月 日()		

報告会は 2026年2月27日(金) 保健センター2階 健康増進室にて 開催予定

2024 年度 日中居住事業所連絡会活動報告 (案)

1 重点課題

- ① 事業所間の交流や連携を深める取り組みを進めます。
- ② 事業所からの要望に基づき、学習・研修会を開催します。
- ③ 要望に基づき「種別交流会」を開催します。
- ④ 地域課題の取り組みを進めます。「余暇活動」「人材確保・育成」等の取り組みを進めます。
- ⑤ 運営委員会を協議会運営委員会・各実行委員会等への派遣

2 定例会

基本第3水曜日 13:30～15:00

定例会	日にち	場所・参加者数	内容
第1回	7/17(水)	保健センター 19 事業所 21名参加	⑥ 日中居住連絡会「活動計画・年間計画」・協議会報告 ⑦ 新規事業所からの報告 就労移行キャリアセンター(有松) ⑧ 報酬改定に関して話題提供「GH・生活介護・就労系」 交流 ⑨ 推進事業所について ⑩ その他 余暇活動・イオン福祉の店・つどい・地域課題アンケート 他
第2回	11/20(水)	希望の家食堂 12事業所 13名参加	① 「障害者グループホームの報道を受けて、私たちの支援について考えよう」利用者(当事者)・ご家族からの話 ② グループワーク ③ 地域課題アンケート結果報告 ④ その他 余暇活動・イオン福祉の店・つどい・地域課題アンケート 他
第3回	2/19(水)	希望の家食堂 22事業所 31名参加	①「恵」問題が私たちに問うこと 中日新聞記者 細川暁子さん講演 ②事務連絡(日中居住通信、イオン福祉の店、余暇活動を考える会、地域課題、つどい)

○運営委員・協議会代表

生活介護ばすてる小濱さん・ニコニコホーム吉安さん、ゆたか希望の家佐藤さん、カフェライフ鎌倉さん
リハスワーク名古屋緑日比さん

運営委員会(リモート開催):4/17.5/15.6/19.10/16.12/18.1/15.3/19

○各部会への実行委員の派遣

つどい → 生活介護あいぽ芝さん

権利擁護部会 → 生活介護ばすてる小濱さん・生活介護あいぽ芝さん

3 種別交流会

- ・ グループホーム交流会 1/29(水) 1330-15 徳重支所

参加者 計 29 名:グループホーム 18 事業所+家族会・育成会・身障協会・部会運営委員

内容:令和7年度からの「地域連携推進会議」の開催義務化に伴い、会議の持ち方について交流

名古屋市役所支援課海付課長補佐を招き、厚労省「地域連携推進会議の手引き」(令和6年3月)をもとに説明・情報交流

4 その他

① 地域課題への取り組み

「誰もが安心して過ごせる『余暇活動』を考える会」を有志にて企画

・5/18(土)さつま芋苗植え ⇒ 11/16(土)芋ほり・焼き芋企画 併せて 19 名参加

・9/7(土)午前 ボーリング交流会 ラウンドワン野並 69 名参加

② 授産製品関係

12/10 イオン大高「みどり福祉の店」(共催:福祉課・日中) 15 事業所参加 協議会コーナー設置

③ 緑基幹センターホームページ 事業所紹介コーナーの管理

新規事業所へ参加の呼びかけと事業所情報の掲載・管理を行った

2024年(令和6年)度 障がいの重い人の支援を考える会のまとめ

南区・緑区の重症心身障がいのある大人と子どもが利用する事業所の集まりが出发点。最近は新しい事業所が挨拶を兼ねて出席することもある。継続的にお互いが抱えている困りごとを基に話や情報の交換をしている。ただ、どこからの切り口でも、社会資源の不足や本人中心で支援を展開することの難しさ、児童分野からよく言われるが親との関係作りと親の意向の受け取りの難しさがよく話に挙がる。医療的ケアについても医療的ケア児支援法が出来て以来話をしている。

昨年度からの課題と考える会が取り組む内容

- ・障がいの重い人の地域での暮らしについて 何を希望しているのか、どういう展開を共に考えていくのか
- ・医療的ケア児等の医療と支援法の動向 医療的ケア児コーディネーターの役割
- ・医療的ケア児者の防災 避難や電源確保

毎月の開催内容(基本毎月1回火曜日 13:30~15:00 オンライン)

	日程	内容
126回	4月9日(火) 13時30分~15時 ZOOM 会議	各事業所の近況・報告・新体制の報告と確認 新年度に伴う異動 にじいろのいえ(療養介護)・入所施設の在り方 令和 6 年度の報酬改定 Mさん一人暮らし1年の報告
127回	5月14日(火) 13時30分~15時 ZOOM 会議	各事業所の近況・報告・困っていること 西区上野さんの事業のクラファン にじいろのいえ相談支援開始 サンフラワ ーのイベント ふきのとうの本人のショート見学 タクシーチケット120枚に
128回	6月11日(火) 13時30分~15時 区役所とZOOM 会議	各事業所の近況・報告・困っていること 重心の方のグループホーム 地域生活の継続・ショートステイの利用 愛光園廣瀬さんの話について 医療的ケア児等コーディネーター
129回	7月9日(火) 13時30分~15時 ZOOM 会議	各事業所の近況・報告・困っていること 療養介護と地域との連携 報酬改定後の加算や個別支援計画作成 ふわふわのホームの報道と影響 中日新聞医療的ケア児の記事
130回	8月20日(火) 13時~15時 ZOOM 会議	各事業所の近況・報告・困っていること 療養介護から移動支援(常滑市) コロナ感染 南海トラフ地震情報 人工呼吸器利用者に電源補助 放ディ卒業後
131回	9月10日(火) 13時30分~15時 ZOOM 会議	各事業所の近況・報告・困っていること 防災について 活動中、送迎中はどうするのか 医療的ケアの人はどうす るのか
132回	10月8日(火) 13時30分~15時 緑保健センター	愛光園 廣瀬治代氏の話 コミュニケーション 本読みの意味、本を通しての 成長
133回	11月12日(火) 13時30分~15時 ZOOM 会議	各事業所の近況・報告・困っていること 廣瀬さんの話の振り返り 地域で重心を診れる医療・ドクター ホーム作り始動
134回	12月3日(火) 13時30分~15時 ZOOM 会議	各事業所の近況・報告・困っていること 各地でおきた医療的ケアを必要とする子供の事件 重心の人の活動、廣瀬さ んの話から 防災の話

135回	1月14日(火) 13時30分～15時 ZOOM 会議	災害時個別避難計画書作成の報告 だいたい医療的ケア児支援センター津田氏 福祉避難所とは 避難訓練も必要、地域との繋がり 伝言ダイヤル
136回	2月4日(火) 13時30分～15時 ZOOM 会議	各事業所の近況・報告・困っていること 学生ボランティア 年度末に向けて相談支援依頼 医療的ケア児等コーディネーター研修報告 卒後の行き場昔と今 にじいろのいえ防災展
137回	3月11日(火) 13時30分～15時 ZOOM 会議	各事業所の近況・報告・困っていること 本人と支援者の関係、何のために事業所があるのか 家族の障がい受容 気温の差 東海市の相談支援閉鎖 学校看護師 映画 来年度のテーマ

19事業所 …子ども関係3 大人日中系6 居宅介護2 入所1 訪問看護2 病院1 基幹2 相談3

打ち合わせ 月1回開催…緑区基幹支援センター カモミール ひととま

まとめ

・昨年度から、重心の方が40歳ぐらいになり、家族が高齢になった時の暮らしの場や支援の話を重ねてきた。また、にじいろのいえが出来たことで、少しずつ動き出し形作られ、入所施設の役割やその課題も忌憚なく話してくれて、日中活動の大切さや社会の必要性に改めて気が付いた。

・また、色々なメンバーが出席したりしなかったりなので一貫した話が難しいが、それぞれの分野が子どもだったり、大人だったり相談支援だったりしても、困っていることは本人の暮らしについてだった。そこに入る支援の質や量、家族との関係、家族の障がい受容、誰に向かったの支援なのか、であり、経験や情報を出し合った。

・その中で10月に対面で、愛光園の廣瀬さんから本人との活動の在り方の基本的な話を伺った。丁寧に本人の心の動きを見ていくこと、それが次を作ることを教えてもらった。

・グループホームでの食費搾取や虐待などが報道された株式会社恵についてもわかっている情報を報告しながら、考えてきた。なかなか表に出て来ない事もあり、今現在どういう状況になっているのかという事を話してもらっていた。

・また、全国で立て続けに医療的ケア児が家族によって放置や殺される事件が起きた。医療的ケア児法が施行されて3年目になるが、一人でケアを担う母の大変さは軽減されず、事件は起きてしまった。もし自分たちだったら何が出来たのかを話しあった。

・医療的ケア児支援センターの津田さんより、防災についての話を伺った。これは医療的ケアを必要とする児童の個別避難計画に取り組んでいる中で分かってきたことなどの報告であるが、メンバーも自分の事業所の本人を意識しながら話を聞くことができた。

課題

- ・地域での暮らしの意味や実現、本人家族の高齢化
- ・地域との関わり・防災
- ・本人中心支援
- ・児童の卒後問題
- ・人手不足による人材確保と育成
- ・障がいの重い人の活動